



ウッディホールでの展示や森林環境 教育を通じた普及活動について

北海道森林管理局 技術普及課

はじめに

木材は加工しやすく親しみやすい素材として、住宅はもちろん、家具や玩具、産業用資材など多くの用途に利用されており、私たちの暮らしに欠かせません。林野庁では、身の回りの物を木に置き換えたり、木を暮らしに取り入れたり、建築物を木造・木質化する「ウッド・チエンジ」の取組を推進しています。

北海道森林管理局としても、多くの方々に木に親しんでいただくとともに、森林や木材の大切さを知つていただくため、様々な普及啓発の取組を進めています。今回は、その中でも森林管理局所管の「ウッディホール」を活用した企画展示や森林環境教育などの取組についてご紹介します。

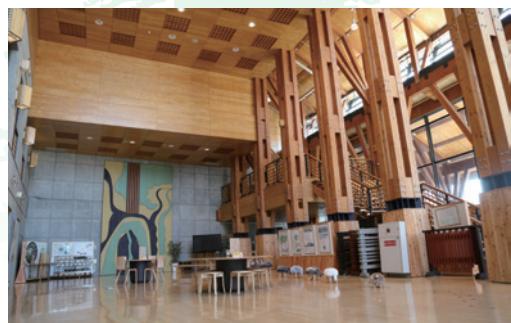
展示による普及啓発・ 情報発信



「木育コーナー」

ラといった道産材がふんだんに使用されており、木の質感とぬくもりを存分に感じられる空間となっています。

ホール内の一番人気は児童が木のおもちゃで遊べる「木育コーナー」で、木のボールプールや家のほか、ウサギなどの動物をあしらった木のオセロや、輪切りされた木材を並べて倒す「年輪ドミノ」など、親子連れや近隣の保育園児に楽しんでいます。



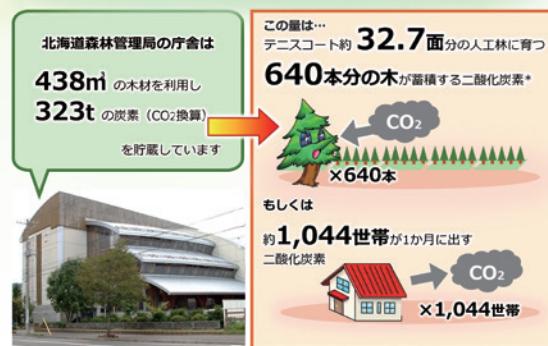
「ウッディホール」全景





占冠村の企画展示 ※現在は終了しています

北海道森林管理局庁舎に利用した木材に係る炭素貯蔵量



また、北海道の主要樹種の木材・球果や、
庁舎の木材利用状況と炭素貯蔵量のパネル
の展示のほか、プロ野球選手が使用した木
製バットや、その材料となるアオダモを

テーマにした「野球バットコーナー」などの
常設展示があります。

さらに、「ウツディホール企画展」として、
国有林や市町村等の森林・林業及び木
材産業等に関する取組の紹介や、写真展、
特產品の企画展示を行っており、地域の情
報発信拠点の一つとなっています。このよ
うな展示を通じて、令和6年度の来場者は
延べ約3千人にのぼり、地域の皆様に親し
まれています。

森林環境教育の場としての活用

「ウツディホール」は森林環境教育等を行
う場としても活用されています。

令和7年度は、5月に札幌市立宮の森
小学校の施設見学を受け入れ、2年生約
100名を迎えて各コーナーを紹介した
ほか、木の太さを測る体験(測樹体験)や大
型モニターによる森林クイズにも挑戦し
ていただきました。児童の皆さんからは
「もっと木のことで知りたくなりました。
「木は私たちの生活を支えてくれて
いることが分かりました。」などの感想が寄
せられ、森林や木材についての理解を深め
ていただきました。良い機会となりました。

7月には、「地域の魅力や価値を体感
し、再発見すること」を目的に、札幌市
内の公共・文化施設、企業施設を一日だけ
特別に夜間開放する「カルチャーナイト
2025」の会場として、ウツディホール
を開放しました。当日は親子連れを中心に
約170名が来場し、鉛筆製造で発生す



カルチャーナイトでの木のたまごの色塗り体験



宮の森小学校児童にバットの説明

るおがくすを使った粘土「むくねんさん」で
の粘土細工、「木のたまご」や「木のコース
ター」への色塗り、北海道の森林・林業を
もカカルタも楽しめます！ また来年も
落ち着きます。別の日にまた子どもを連
れて遊びに来たいと思いました。」などの声
が寄せられ、来場者の方々に木材とのふれ
あいを存分に楽しんでいただきました。

庁舎に利用した木材の炭素貯蔵量



おわりに

建物のエントランスは、来場者に第一印
象を与える「建物の顔」ともいえる重要な空
間です。「ウツディホール」での展示や活動
を通じて、北海道森林管理局の業務内容を
理解していくだけでなくともに、木材と気軽に
触れ合っていただく空間として提供すること
で、より一層地域の皆様に親しまれ、印
象的な場所としてあり続けられるよう努め
てまいります。